

LUXSYS (ラクシス)

PCa
SHAFT
LUXSYS

後付けエレベーターの最新技術 プレキャストPCエレベーターシャフト「ラクシス」

全国PCaエレベーターシャフト協会は、既設住宅の有効活用や、共用部のバリアフリー化に貢献する「ラクシス」を協会統一規格でご提案しています。

協会統一規格、という安心と信頼——

協会だからこそ実現できる製品の安定供給と、スムーズな対応、確かな施工技術があります。



▶ 特長

- 1 各種鉄筋コンクリート部材をPC鋼棒により一体化することにより、地震時でも単独で安定する昇降路建物なので、既存建物の危険性を増大させずに増築を行うことが可能です。
- 2 シャフト部の床面積は、従来工法（鉄筋+ALC）の約65%となり非常にコンパクトです。
※4人乗り用（階段室型住宅用）の場合
- 3 施工時の組立は内足場のみで外足場が不要であるため、工事スペースが小さくなります。
- 4 既存建物をそのままにして『増築』ができます。
既存建物に後からエレベーター昇降路を取り付ける工事は『増築』として扱われます。
〈建築基準法第86条の7〉（既存の建築物に対する制限の緩和）により、〈建築基準法施行令第137条の2〉（構造耐力関係）の規定を満たせば、既存建築物に対する制限が緩和されます。
ラクシスは既存建物とExp.Jを介して接続しますので、既存部分の構造耐力上の危険性が增大しないため、増築部分の面積が小規模（既存部分の1/20以下かつ50m²以下）であれば、構造耐力関係での既存部分への遡及はありません。
- 5 1基あたり、通常4日での施工が可能で、従来の鉄骨造と比較して、躯体の工期は約1/10となり、全体工期の大幅な短縮が可能です。

※取扱地域が記載されていない地域については、担当営業所(P488)にお問い合わせください。

4人乗り
対応

6~15人
乗り対応

▶ スペック

ラクシスは4人乗り、6~15人乗りの2タイプをご用意しております。
設置場所に応じてお選びください。

一般社団法人プレハブ建築協会
PC部材品質認定取得

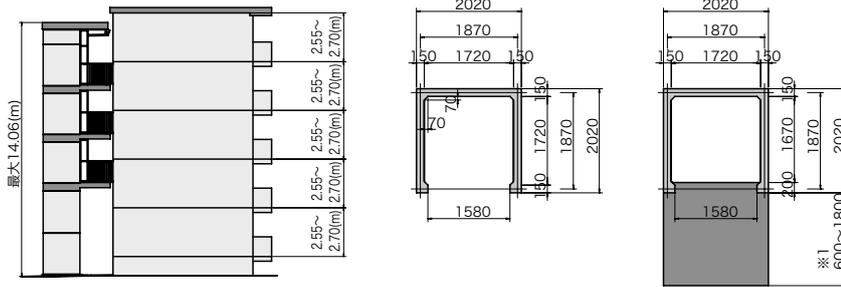
*PC部材品質認定は、兵庫第一工場、千葉工場が取得しております。

4人乗り用 設置対象：階段室型共同住宅、共用廊下型共同住宅

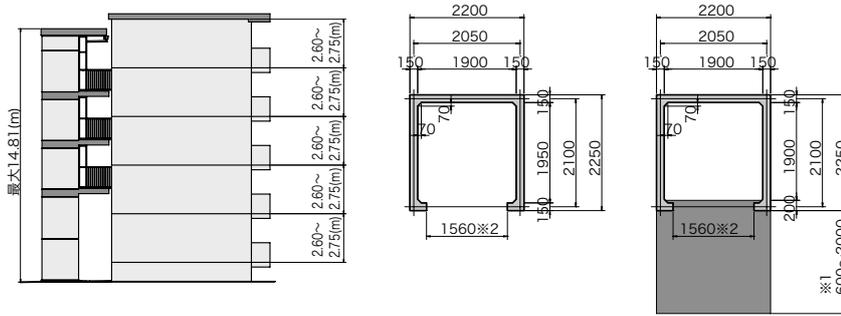
単位:mm

エレベーターメーカーの仕様に応じて、標準、ワイドタイプの2種類をご用意しております。

標準

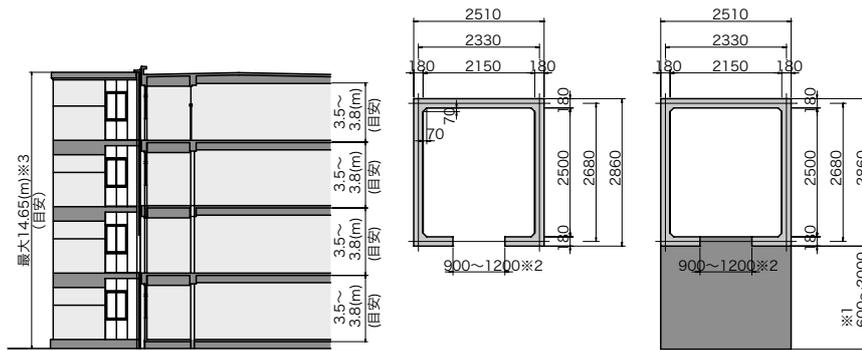


ワイド



6人~15人乗り用 設置対象：学校・その他公共施設等

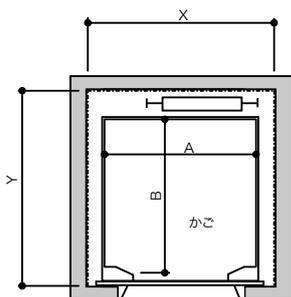
単位:mm



※1 連絡通路長さが600mm以下についてはご相談ください。
※2 エレベーターメーカーの仕様に応じて寸法が異なります。
※3 高さ14.65mを超える場合は、ご相談ください。

収容できるエレベーター規格

単位:mm



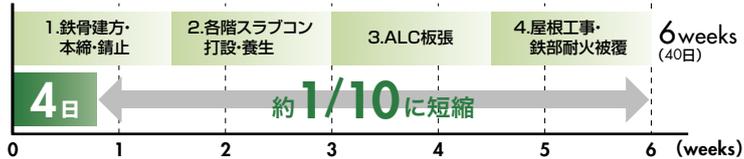
種類	定員 (人)	積載量 (kg)	かご内寸法		必要内寸法	
			A	x B	X	x Y
中低層建築用	4	320	900	x 1400	1550~1650	x 1650~1750※
	6	450	1400	x 850	1850	x 1550
	9	600	1400	x 1100	1850	x 1800
乗 用	11	750	1400	x 1350	1850	x 2050
	13	900	1600	x 1350	2150	x 2150
	15	1000	1600	x 1500	2150	x 2300
住 宅 用	6	450	1050	x 1150	1600	x 1750
	9	600	1050	x 1520	1600	x 2150
	13	850	1050	x 2000	1700	x 2350

※4人乗り用はエレベーターメーカーにより必要内寸法が異なります。

工期

従来工法
(S造)

ラクシス



準備工

1日目

●PC鋼棒アンカーセット工

・テンプレートでPC鋼棒の位置を決定し、PC鋼棒とグラウトホース設置後、基礎を構築します。



●運搬・搬入

部材の運搬は、15tトラック、またはトレーラーを使用します。6～15人乗りタイプの部材は、最大幅が2.51mになりますので、搬入路に注意願います。



●PC鋼棒連結工

・カップラーでPC鋼棒を連結し、次工程の部材組立に備えます。



●部材組立 (部材の据付)

・クレーン(35t～65t)の使用は部材組立の初日のみです。足場はシャフト内部のみに設置し、出入口部材(高さ調整用部材)と連絡通路用部材を交互に据付けます。



2日目

●目地グラウト工

・部材間の水平目地にグラウト材を充填します。充填するグラウト材は、無収縮プレミックスタイプで、早強性のものです。



3日目

●PC緊張工

・目地グラウトの圧縮強度が所定の強度に達したことを確認した上で、PC鋼棒を緊張します。
・導入する緊張力は、示度計の表示、及びPC鋼棒の伸び量の測定により管理し、必要な緊張力が導入されていることを確認します。



4日目

●シースグラウト工

・PC鋼棒を通すシース管内にグラウト材を充填します。シースグラウトは基礎に埋め込んだホースより注入し、屋根スラブに設けたコアより吐出を確認します。



●モルタル充填工

・定着部、および吊金具部は、破損、または腐食しないように、モルタル又はシースグラウトで保護します。モルタル又はシースグラウトは無収縮とし、母材同等以上の強度(40N/mm²)を有するものを用います。



取扱地域 北海道 東北 関東 中部 北陸 近畿 中国 四国 九州 沖縄

※取扱地域が記載されていない地域については、担当営業所(P488)にお問い合わせください。

▶ 施工事例

■ 集合住宅・団地

入居率の向上が期待できます。それにより資産価値の維持が期待できます。階段室型、共用廊下型の集合住宅に設置が可能です。



■ 学校

夏休み等の休暇期間内での組立完了が可能です。学校内の工事であれば、学童の安全を確保し、授業への影響を最小限に抑えることができます。



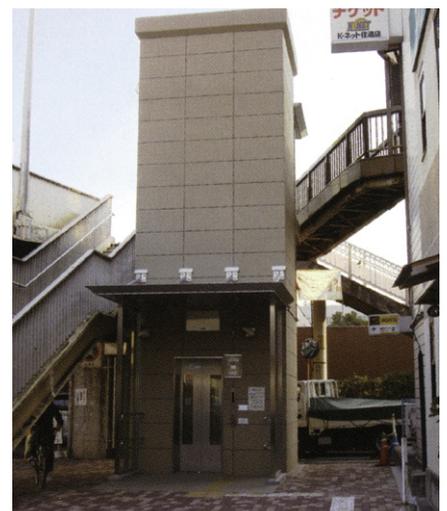
■ 公共施設

施設開放しながらの工事が可能です。利用者への影響も大幅に削減できます。



■ 歩道橋

利用者の少ない夜間の施工が可能です。大きな仮設スペースは必要ありません。



カルバート・
下水道

擁壁・
法面保護工

道路

高速道路

水路関連

河川・海洋・
環境

貯留・
防災システム

通信関連

建築・宅造

特殊工法・
新素材

参考資料